

# 身体障害者診断書・意見書

総括表

（ 肢 体 不 自 由 障 害 用 ）

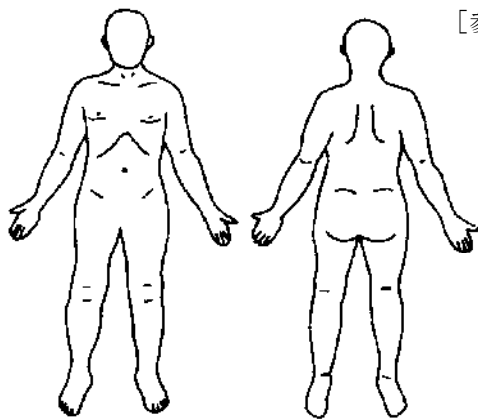
氏 名	年 月 日生 ( ) 歳	男 ・ 女															
住 所																	
① 障害名 (障害のある身体部位も明記)																	
② 原因となった 疾病・外傷名		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他 ( )															
③ 疾病・外傷発生日		年 月 日 ・ 場所															
④ 参考となる経過・現症 (リハビリを含め障害固定までの経過を明記してください。)																	
障害固定又は障害確定 (推定) 年 月 日																	
⑤ 総合所見 (上肢・下肢・体幹の機能の障害程度を具体的に記入してください。)																	
【 将来再認定 要 (軽減化・重度化) ・ 不要 】 (再認定時期 年 月)																	
⑥ その他参考となる合併症状																	
<p>上記のとおり診断します。併せて以下の意見を付します。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p>病院又は診療所の名称</p> <p>所 在 地</p> <p>電 話 番 号</p> <p>診療担当科名 科 15条指定医師氏名</p>																	
<p>身体障害者福祉法第15条第3項の意見</p> <p>障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当する ( 級相当)</li> <li>・該当しない</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※2つ以上の障害が重複する場合は、手引(総括事項)を参照し、各指数の合計値から総合等級を算定してください。</p> <p>※7級の障害が1つのみの場合、身体障害者手帳は交付されません。</p> </div>	<p style="text-align: center;">【障害部位別等級の参考意見】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">上肢</td> <td style="width: 15%;">右 級</td> <td style="width: 15%;">左 級</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>下肢</td> <td>右 級</td> <td>左 級</td> <td>※両 級</td> <td></td> </tr> <tr> <td>体幹</td> <td colspan="2">級</td> <td colspan="2">※両下肢障害の場合、記入してください。↑</td> </tr> </table>		上肢	右 級	左 級			下肢	右 級	左 級	※両 級		体幹	級		※両下肢障害の場合、記入してください。↑	
上肢	右 級	左 級															
下肢	右 級	左 級	※両 級														
体幹	級		※両下肢障害の場合、記入してください。↑														
<p>備考 1 「①障害名」には、病名ではなく現在起こっている身体部位を含めた障害名(右上下肢麻痺、四肢体幹機能障害、移動機能障害等)を記入してください。</p> <p>2 「②原因となった疾病・外傷名」には、原因となった基礎疾患名(脳梗塞、<sup>こうそく</sup>脊髄<sup>せき</sup>小脳<sup>せう</sup>変性症、<sup>ひ</sup>脳性麻痺等)を記入してください。</p> <p>3 障害区分や等級決定のため、相模原市社会福祉審議会審査部会からお問合せする場合があります。</p>																	

肢体不自由の状況及び所見

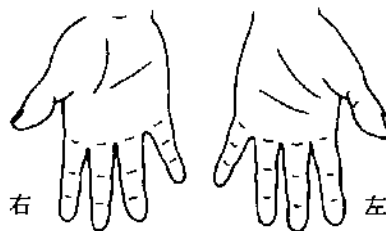
(該当するものを○で囲み、空欄に追加所見を記入してください。)

1 神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見

- (1) 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- (2) 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- (3) 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- (4) 排尿・排便機能障害：なし・あり
- (5) 形態異常：なし・脳・脊髄・四肢・その他



[参考図示]



備考2 指の切断の場合は、指骨間関節（PIP、IP）の有無を明記してください。

×変形 ■切離断 ▨感覚障害 ▨運動障害

備考1 切断の場合は、前腕、上腕、大腿、下腿の1/2以上か否かを明記してください。

右		左
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径 cm	
	前腕周径 cm	
	大腿周径 cm	
	下腿周径 cm	
	握力 kg	

2 動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—× ( )の中のものを使う時はそれに○

寝返りする			シャツを着て脱ぐ	
足を投げ出して座る			ズボンをはいて脱ぐ（自助具）	
いすに腰掛ける			ブラッシュで歯を磨く	
立つ（手すり、壁、杖、松葉杖、義肢、装具）			顔を洗いタオルで拭く	
家の中の移動（壁、杖、松葉杖、義肢、装具、車いす）			タオルを絞る	
洋式便器に座る			背中を洗う	
排泄の後始末をする			二階まで上って下りる（手すり、杖、松葉杖）	
(箸で) 食事をする（スプーン、自助具）	右	左	屋外を移動する（家の周辺）（杖、松葉杖、車いす）	
コップで水を飲む	右	左	公共の乗物を利用する	

備考 身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

計測法

上肢長：肩峰→橈骨茎状突起

下肢長：上前腸骨棘→（脛骨）内果

上腕周径：最大周径

前腕周径：最大周径

大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径（幼児等の場合は別記）

下腿周径：最大周径

肢体不自由の状況及び所見

氏名

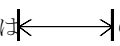
検査日

年 月 日

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) [この表は必要な部分を記入してください。]

筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )
( ) 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 ( )	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	右屈 ( )
( ) 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 ( )	90 60 30 0 30 60 90 120 10 180	左
( ) 屈曲		伸展 ( )		屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( )		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( )		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( )		屈曲 ( )
( ) 回外		回内 ( )		回内 ( )
( ) 回外		回内 ( )		回外 ( )
( ) 掌屈		背屈 ( )		背屈 ( )
( ) 掌屈		背屈 ( )		掌屈 ( )
( ) 屈曲		母 伸展 ( )		母 屈曲 ( )
( ) 屈曲		示 伸展 ( )		示 屈曲 ( )
( ) 屈曲		中 伸展 ( )		中 屈曲 ( )
( ) 屈曲		環 伸展 ( )		環 屈曲 ( )
( ) 屈曲		小 伸展 ( )		小 屈曲 ( )
( ) 屈曲		母 伸展 ( )		母 屈曲 ( )
( ) 屈曲		示 伸展 ( )		示 屈曲 ( )
( ) 屈曲		中 伸展 ( )		中 屈曲 ( )
( ) 屈曲		環 伸展 ( )		環 屈曲 ( )
( ) 屈曲		小 伸展 ( )		小 屈曲 ( )
( ) 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展 ( )	90 60 30 0 30 60 90 120 10 180	屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( )		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( )		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( )		屈曲 ( )
( ) 底屈		背屈 ( )		背屈 ( )
( ) 底屈		背屈 ( )		底屈 ( )

備考

- 備考 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とします。  
 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会又は日本リハビリテーション医学会の指定する表示方法とします。  
 3 関節可動域の図示は  のように両端に太線をひき、その間を矢印で結んでください。強直の場合は、強直肢位に波線 (〽) を引いてください。  
 4 筋力については、表 ( ) 内に ×△○印を記入してください。

×印は、筋力が消失または著減 (筋力 0、1、2 該当)

△印は、筋力半減 (筋力 3 該当)

○印は、筋力正常またはやや減 (筋力 4、5 該当)

5 (PIP) の項母指は (IP) 関節を指します。

6 DIP その他手の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いてください。

7 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出して記入してください。

例示

(×) 伸展  屈曲 (△)